

授業評価・授業研究報告

保健体育・藤原 誠

はじめに

本授業は，多様な様相を呈しているスポーツについて，学校で行われる，いわゆる学校体育・スポーツを除く，社会体育・スポーツの領域や，その現状について認識を深めるとともに，そのマネジメントについて理解することを目的としている。

受講生は，そのほとんどを生活健康課程・健康スポーツコースの学生が占めている。将来，スポーツ関連の仕事に就くことを想定し，社会体育・スポーツを広い視野をもって捉えることができること，さらに，個々のスポーツ現象・スポーツ事象をマネジメントするために必要となる知識等を身につけることをねらいとして授業を行っている。

授業の概要

スポーツマネジメントの意味や意義を理解するため，受講生が所属している，または，所属していた運動部を取り上げ，身近なこととしてマネジメントを捉えるところから授業を開始している。スポーツの環境条件を整えることの必要性を認識するところからの出発である。

授業内容としては日本におけるスポーツ状況の概観，スポーツ行政の裏付けとなる法律，スポーツ振興計画の策定およびその内容など，広い意味での社会全体に関わるスポーツのマネジメントについて取り上げている。その際，文部省（現文部科学省）の保健体育審議会答申を策定するにあたって参考にされたと思われる，欧州のスポーツ状況についても，ビデオを視聴するなどして理解を深めている。また，スポーツ振興基本計画に示された総合型地域スポーツクラブについても，日本における状況，愛媛県における状況，本学で設立された愛媛大学総合型地域スポーツクラブ等について，具体的に取り上げて考察している。

さらに，松山市を例にとりながら行政施策にみるスポーツ振興の方策について概観するとともに，具体的な取り組み状況を確認している。また，公共スポーツ施設の果たすべき役割や機能との関連の中で，公共スポーツ施設の事業内容およびそのマネジメントについて考察している。

他方，スポーツ産業の一領域として活況を呈している民間スポーツ施設，特にフィットネスクラブを取り上げ，今日に至るまでの発展経緯や現在の特徴・動向について，マネジメントの観点から検討を加えている。

上述のように，本授業で取り上げる内容は，受講生にとって馴染みの薄い事項がその多くを占めており，毎授業時に資料を配布して，理解を深めることができるよう配慮している。また，この資料の見直しを帰宅後実施するように促している。

評価に関しては，中間および期末に試験を実施している。中間試験は，それまで学習したことを自分で整理してまとめるという意味合いもあり実施している。授業内容の理解が十分でないと判断した場合には，レポート課題を出し，理解を深めるよう努めている。

最終の授業時には授業に関するアンケート調査を実施して，本授業の在り方を受講生の立場から検討するための資料を得ることにしている。

アンケート調査の結果概要

1) 授業に対する取り組み状況

介護体験や運動部の大会出場によるやむを得ない欠席（公認欠席）に加え，個人的事情による欠席が多い者もみられた。受講態度については，熱心に取り組む者が多い反面，教室の後ろに座り，授業に集中していない者もみられた。アンケート調査での記述には，「フィットネスクラブのスタッ

フとしてアルバイトをしているので、商業スポーツに興味があります。今回の授業を受講することで、更に興味がわきました。」など、積極的な意識をもって授業に臨む者がいる反面、「遅刻や欠席が多かったように思う。また、前の席にはあまり座らず、後ろばかりに座っていた」などと記述する者もあり、授業への取り組みにかなりの違いがみられた。

2) 授業の内容や理解の程度

本授業で扱う内容は、受講生が初めて接する領域に関するものなので、極力、分かりやすい事例等を引き合いに出しながら、理解しやすいように配慮しながら授業を進めている。アンケート調査の記述には、「内容的には、そんなに難しいものではなかったと思うし、これからの自分たちにとって大切なことにもなると思うので、興味深いものだった。」、「すごく分かりやすく、楽しかったです。日本と海外の比較などがあり、今後どうすればいいのか、などを考えさせられました。」などにみられるように、内容や、そのレベルを肯定的に評価する者がいる。しかし、「授業内容やレベルは、ちゃんと授業を受けていれば理解できるものだったと思うが、途中、欠席したり、寝てしまったりで、理解度は低いと思う。」という者もいた。授業の理解度を高めるためには、授業内容に加え、学生の授業への取り組み姿勢を改善する方策が必要なことを認識させられた。

3) 授業のやり方について

受講生に新たな知識を身につけてもらうという観点から、講義形式の授業展開が主となる。毎回、資料を配布して理解が深まるように配慮している。また、欧州と日本のスポーツ状況等については、視覚的に捉える方が理解が容易になるということで、ビデオを使用している。

講義形式の授業ではあるが、教師からの一方的な働きかけで終わらぬよう、適宜、受講生に質問をして、それに対する考えを発表してもらうようにしている。

アンケートの記述には、「総合型スポーツクラブのビデオを見たり、一人一人の意見を言ったりすることで、より知識を深め

ることができたと思います。」や「いつも資料を用意してくださったのとビデオもあったりと、よかったと思います。」という肯定的な評価をする者と、「もっと板書を多くしてもらったら充実していただろう。」という指摘をする者もいた。板書の有効な使用についても考慮することが必要だと思われる。

中間テストの実施については、「中間テストがあったので、そこで一度、整理（みなおす）ことができてよかった。」という記述もあり、今後も引き続き実施していこうと思う。

4) 授業の環境について

授業の環境については、数年前にエアコンが入り、授業環境が改善された。しかし、設置が一箇所であり、場所によって温度差を生じている。「最適の環境でした。」という記述もあれば、「暖房がききすぎて暑いときもあった」という指摘もあり、空調設備の更新が求められる。この問題は教育学部本館の改修により解消されると思われる。

空調以外では、全教室へのプロジェクター等、視聴覚機器の設置が必須となる。視聴覚機器を使用しての授業は、授業内容に対する受講生の興味・関心を高め、理解を深めるのに有効である。今回使用した教室にはスクリーンしかなく、ビデオ(DVD)を見るときには、その都度、DVDプレーヤーとプロジェクターを持ち込むことになった。整備が強く望まれる。

おわりに

今回の授業を終えて感じるのは、授業に対する受講生の姿勢である。熱心に取り組む者は極めて熱心であるが、中には最初から授業を受ける意欲が感じられない者もいる。一部のこのような受講生の存在は授業全体に好ましくない雰囲気醸し出す。

受講生が興味を持ち、積極的に授業に取り組めるよう、教員側の努力・配慮も必要であるが、受講生にも今一度、自ら学ぶ姿勢、学ぶ意味等について再考してもらいたい。受講生に対して、厳しく対応することは可能であるが、それでは本来の学びにならないと思う。